

コースの魅力

中山道番場宿から国指定史跡鎌刃城跡、滋賀県指定史跡松尾寺跡を結ぶコースです。尾根筋をたどり、西に琵琶湖、東に伊吹山と霊仙山を望むことができます。

注意を守って、楽しいトレッキングを！

散策の注意

全長約 8.0 km、高低差約 470 mの健脚の方向きのトレッキングコースです。途中急な坂など滑りやすいところもあります。登山又はトレッキング用の靴、杖等の軽登山の装備、複数人での散策・見学をおすすめします。

コースの途中にトイレはありません。(青龍滝に簡易トイレがあります)



安全な散策のため、わからないことは事前に下記までお問合せください。

米原市教育委員会 TEL.0749-55-4552 FAX.0749-55-4040



ヒル、ハチなどが出る場合があります。

近年麓の集落では、鹿、イノシシなどの獣害に悩まされています。山の周りには獣除けの柵をめぐらせています。扉を開閉し出入りしていただいて構いませんが、通った後は必ず柵をきちんとしめてください。



文化財に指定されているものが数多くあります。見学の際にむやみにコースを外れたり、石垣や土塁などの遺構を壊さないように注意してください。

コースは私有地、信仰の地を通っています。指定文化財以外にも地元の人々が大切にしているものがあります。モラルをもって散策・見学していただくようお願いいたします。

竜宮山

松尾寺山砦跡

鎌刃城跡～松尾寺跡 トレッキングマップ



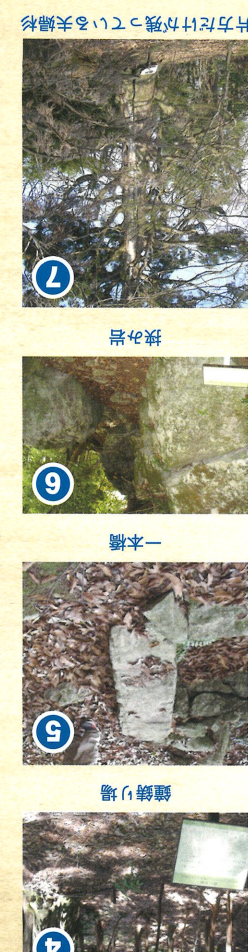
平成27年度埋蔵文化財公開活用事業



①JR米原駅、又は近江鉄道米原駅下車。
②JR米原駅よりバス、番場まで約10分。
③バスで醒井養鷲場まで約15分。
④バスで醒井養鷲場まで約10分。
⑤バスで醒井養鷲場まで約10分。
⑥バスで醒井養鷲場まで約10分。

①米原から国道21号へ。
②西へ進む、ひつめの信号を左折。
③道なりに進む、ひつめの信号を左折。
④町屋橋Pに駐車。
⑤番場宿Pに駐車。

①米原から国道21号へ。
②西へ進む、ひつめの信号を左折。
③道なりに進む、ひつめの信号を左折。
④町屋橋Pに駐車。
⑤番場宿Pに駐車。



松尾寺の七不思議??

松尾寺には古くから七つの不思議が伝えられ、参拝者にも親しまれています。

- 1 飛行観音** 松尾寺の御本尊の聖観音と十一面観音の2体の仏様が、役行者が修行をしていたとき、雲に乗って空中から飛んで降りておりました。
- 2 影向石** 川の上にお降りになったと伝えられています。仏様の足跡が残っていたといわれます。
- 3 役行者の弁割水** 役行者が松尾寺山で修行していたとき、清水が滾々と湧き出してきました。
- 4 鐘鐺り場** 松尾寺の釣鐘を鑄造したところ嫌い、たとえここに小便等をするとおなか痛くなるといわれています。
- 5 一本橋** 川のない所に石橋が架かっています。松尾寺に入るにはこの橋を必ず通ります。橋は聖と俗を分かち、これを渡ることで穢きをします。
- 6 狭み岩** 松尾寺で悪いことをすると、狭まれて動けなくなるといわれています。
- 7 夫婦杉** 千年ほど前、弘法大師が松尾寺に参詣され、お弁当を食べた時、土に突き刺した箸が大きな杉の木になりました。上下逆さに刺したので、木の枝がみな下を向いているといわれています。現在は片方が倒れ、1本だけが残っています。

松尾寺跡 滋賀県指定文化財

近江・湖北は数多くの霊峰に囲まれ、古くから山岳信仰の聖地とされてきました。松尾寺もそのひとつです。

現在はその拠点に醒井養鷲場の隣の里坊に移っていますが、かつての境内地は、霊仙山が一望できる松尾寺山の山腹にあり、九重塔(重要文化財)、本堂跡や数多くの坊跡が残っています。寺伝によると、天武天皇9年(680)に、役小角(役行者)が松尾寺山に入り修行したのが始まりとされ、平安時代には、伊吹山寺の創建に関わった僧三修の弟子である松尾重子が興隆に力を注いだと伝わります。浅井亮政(長政の祖父)などの書状が残されており、戦国時代にはこの地域の有力武将とつながりが深かったことがわかります。江戸時代には彦根藩の庇護により本堂が再建されました。ご本尊は飛行観音と称され、秘仏です。空中から雲に乗って飛来したとされ、現在では、空を旅する人や航空関係者などが安全祈願に訪れます。

松尾寺の下丹坂口集落から登る参詣道の1丁ごとに道程を示す石造りの道しるべが建てられています。中世末期～近世にかけてのものは一部失われていますが、坂口からの参詣道に残る近代のものはずべて残されており、麓の入口の1丁からはじまり、十二丁で松尾寺に到着します。

中世～近世の丁石、上に仏様を示す梵字が刻まれており、丁石ともいわれます。

参詣道の丁石

米原市指定文化財



松尾寺の下丹坂口集落から登る参詣道の1丁ごとに道程を示す石造りの道しるべが建てられています。中世末期～近世にかけてのものは一部失われていますが、坂口からの参詣道に残る近代のものはずべて残されており、麓の入口の1丁からはじまり、十二丁で松尾寺に到着します。

境目の城

鎌刃城跡

詳細は「鎌刃城トレッキングマップ」をご参照ください。



主郭虎口石垣



大堀切

●歴史

戦国時代、近江では江北の京極氏や浅井氏と、江南の六角氏が争っていました。南北の国境にある鎌刃城は、中山道やその他の山間を抜ける道を監視する役割をもち、その時々勢力争いにより、城主・城代が入れ替わる「境目の城」でした。

文明4年(1472)	六角方の堀氏が守る鎌刃城を京極方の今井氏が攻める
天文7年(1538)	六角定頼による湖北侵攻により六角氏の城となる
永禄2年(1559)	浅井氏に属した堀氏が入城
元龜元年(1570)	城主堀秀村は織田方に付き、鎌刃城はその拠点となる
天正2年(1574)	堀氏が改易され、まもなく廃城

●特徴

鎌刃城は、標高384mの山頂に築かれた、戦国時代の典型的な山城です。山頂の主郭と副郭を中心に、北西に延びる尾根、西に延びる尾根はそれぞれ4つの堀切により防備を固め、ともに7か所の曲輪が配されています。南東の尾根は、まさに鎌の刃のように急峻にそそり立ち、8本の堀切が施されています。また西曲輪には畝状竪堀群を確認することができます。

雨乞祈願の山

竜宮山

昭和の初めのころまで、番場の村では田植えができないほど日照りが続くと、竜宮山で雨乞いをしました。西番場と東番場から若者3人ずつが御神酒を瓢箪や青竹の筒に入れて背中にくりつけて登ります。御神酒を捧げる8つの池と真ん中が龍の形の屏風の形をした3つの岩を併せて八大竜王様と称し、祈願しました。竜宮山から若者たちが帰ると、神社境内で再び雨乞い歌に太鼓と鉦鼓に合わせて踊り、祈願します。3日3晩祈願しても雨が降らないと、竜宮山の頂上で、火を焚きます。その炎は遠く長浜からも見え、番場の山に火が見えたらまもなく雨が降ると安心したそうです。



青龍の滝には鎌刃城へ水を引いた水の手跡が残っています。鎌刃城より高い所にあるんですね。

竜宮山登山コース

距離は長いけれど登りが楽なのはこちら。



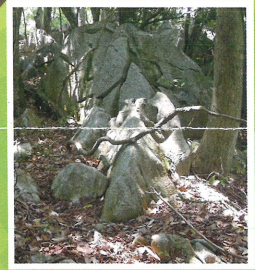
竜宮山から琵琶湖の眺め



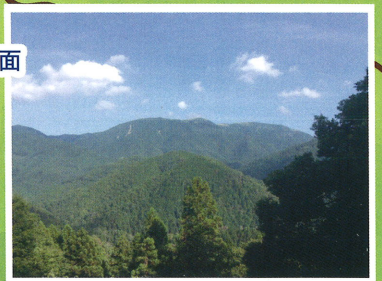
尾根伝いの道は風もさわやか



八葉山からの琵琶湖方面の眺め



鎌刃城跡も、竜宮山も、松尾山も石灰岩の山です。石灰岩は水に溶けやすく、溶け残ったものが土中から突出し、特徴ある岩石の風景を作っています。



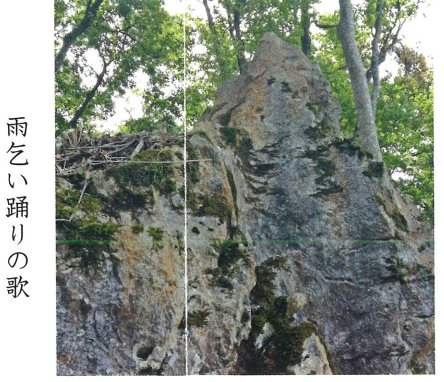
松尾寺跡からの霊仙山の眺め

松尾寺山砦

西坂集落よりの松尾寺参詣道が尾根の稜線にさしかかったすぐ西側の尾根上に位置しています。3本の堀切を設けて尾根筋を切断する構造になっており、南西側の堀切①から北東側の堀切③までが約200mあり、この間が砦跡です。中央にある堀切②は最も大規模で、上部の幅は約8mあります。この堀切の東側が主郭で、規模はおおよそ20m×20mとなっています。主郭部分から堀切③までは約80mあり、一部削平されていますが、郭というよりは自然の尾根筋であり、また堀切②から③にいたる間は自然の尾根筋です。こうした構造は臨時的な築城を示しており、さらに立地からも在地支配の城ではないと考えられます。



堀切②



雨乞踊りで歌われる「龍頭」の岩はどれか、想像してみましょう。

雨乞い踊りの歌

雨を念ずる吾なれど
龍王様へ雨乞い
急げば程なく坂後の
露たる水も田につける
是も名高き三ツ頭
たなびく雲の心地さよ
小杖で上る三ツ岩の
ひとへに惣社の御めぐみ
右手に見ゆるは磯崎の
明神様を伏し拝む
鍋師平を打ち越えて
今こそ此処で雨となる
音に聞こえし通通の
つら折なる道越へ
西の面をながむれば
立つ白波の見事さよ
つんとに見ゆるは滝つ瀬の
心とともに身を清め

水に映ずる船岩の
弁財天伏し拝む
雲をまきとる龍頭よ
雨が潤とは是とかや
八大竜王伏し拝む
も又下向しよ宿々へ
雨乞い踊りを おどろよ
長の日照りでもの憂さに
氏子共が驚いて
龍王様へ雨乞い
三日三夜とかけますで
三日三夜のそのうちに
たんの雨を下されや
たんの雨を下されや
氏子共が喜んで
御礼に踊る湯の花で
末ははるばる長けれど
雨乞い踊りは是まで

「大正十三年雨乞踊り」より